

## 6日間の実習を通して

社会福祉学部社会福祉学科2年 鬼頭 真子  
活動先：NPO 法人 だいこんの花  
クラス：野尻 紀恵 先生

私は、6日間だいこんの花で実習を行った。NPOに6日間行って気づいたことは、利用者さんと職員さんの距離が近いということである。少しの変化にも気づき利用者さんのことを一番に考えることである。また、利用者さんと職員さんの信頼関係が強く利用者さんにとっては毎日でも来たくなるような環境である。

私は、だいこんの花に行き大きな施設とは違い NPO はその人らしさを大切にする場所だと気づいたのである。利用者さんがどこまで自分ででき、どこができないのかきちんと把握し、できないところのみ支援することが大切だと感じた。大きな施設にボランティアに行ったことがあるが、時間との闘いでその人らしさを尊重していないように感じた。

また、だいこんの花の職員さんたちは思いが強く、自分自身がどうしたいのかはっきりとした目標を持って利用者さんと関わっていることを感じたのである。ディサービスの空間も大切だと感じた。だいこんの花は民家の一角にあり、地域に馴染んでいると感じた。地域に馴染む環境にすることによって、気軽に足を運ぶことができるのだと感じた。利用者さんの育った環境と似た場所で1日過ごしてもらうことがこの NPO のこだわりである。育った環境と似た場所で1日過ごすことによって安心感を得ることができ、その人らしさを尊重することができるのである。

6日の間にディサービスの他に訪問介護を行った。私にとって訪問介護の経験は初めてで人の家へ上がって、人が生活している環境に入り、ご飯、洗濯、掃除を行うことに抵抗感を感じた。しかし、訪問介護が存在しなければ日常生活を送ることが困難な方がいるのである。必要なサービスを受け在宅で生活できることは幸せなことだと感じた。どこかが悪くなったから施設にすぐ入るという考えではなく、その人の自己決定も含めその人がどのような暮らしを選択するかでサービスが提供できる環境作りが大切だと感じた。その人らしさを大切にする支援が求められているのである。もっと訪問介護に力を入れていくべきだと感じる。訪問介護に力を入れる為には、福祉に関心を持ち自己決定を尊重する姿勢が大切である。

また、私たちは実習の中で夏祭りの企画を行った。私たちは、何度企画しても企画が上手くいかず何度も話し合い企画を行った。しかし、去年とほとんど同じ企画になってしまった。私たちは、時間ばかりに捉われて利用者さんのことを一番に考えることができなかつたと思う。そこで私は、企画について研究することにしたのである。企画についてだいこんの花にインタビューを行った。私は、インタビューを行い企画は利用者主体であることに気が付いたのである。私は、今まで利用者側であって企画を立てる側に立って初めて企画には目的、目標があることを知った。企画は人と関わることから生まれるものだと感

じた。また、企画は誰のために行うのかということで異なる。相手のことを知り、企画を行うことはその人の支援に繋がると考えた。

私は、NPOの実習を通して人と関わることの大変さを学んだ。利用者さんとコミュニケーションをとることは難しく、その人のことを知っていないとなかなか話は弾まない。自分では関わっていると思っても周りから見れば、遠慮がちになっている部分もあった。大切だと思ったことは、利用者さんのことを知り、その人の背景を知ることである。

私はこのSLの6日間の実習を通して、NPO法人が人との関わりを大切にすることの重要性を学んだ。また、活動中には気づけなかった反省点など、活動後にゼミのみんなで話し合うことによって、新たな考えを発見することができたり、活動先の人の言葉の背景を知ることができたのである。振り返りをする中で、次の実習などに繋がると感じた。

来年実習では、今回のSLの体験を生かし、人と関わることを大切に、利用者さんのことを一番に考えることのできる支援をしていきたいと思う。

活動を行って私は、NPO法人はどの地域にも必要だと感じた。なぜなら、同じ境遇のひと達が集まって一日過ごすことはその人の居場所になると思うからである。地域に居場所があれば積極的に社会と関わるができる。地域と関わることのできる場所がNPO法人である。私が実習を行っただいこんの花では、レクリエーションの時間に作った作品を産業まつりなどに出し、地域の人たちに見てもらおうという取り組みもしている。それによって利用者さんたちは、やりがいを感じながら作品作りをしているのである。私は、このような取り組みは社会活動に繋がると感じた。「だいこんの花に来て作品作りをすることが楽しみ」だと利用者さんのほとんどはおっしゃっていた。

NPO法人は地域にあることから気軽に頼れる存在である。何かあったらすぐに頼ることのできる存在である。また、利用者さん同士近所に住んでいてだいこんの花で仲良くなり、普段でも挨拶をするようになったなど、地域の中でネットワーク作りができていると感じた。今の地域社会は孤立化しており、何かあっても頼る人がいないなど特に高齢者の方にとっては不安な状況である。NPO法人のようにひとつでも安心していただける時間・居場所は、今一番求められていることである。安心して暮らせる地域でなければ、生きがいを見つけることは困難だろうと思われる。

住み慣れた町、暮らし続けた家で高齢者、障がいのある方、その他困難を抱えている方とその家族が自分らしく生きていけるように誰もが気軽に立ち寄れる場所作り、というだいこんの花の活動理念がある。人を大切に、困った時はお互い様の気持ちを忘れずに、住みやすい地域作りに努めることである。この言葉が私は印象的だった。私が高齢者になって今の地域で安心して暮らせるのか、と考えたときにそれは困難だと感じた。なぜなら、安心して暮らせる環境ではないから。まずは、地域の中に安心して暮らせる環境作りが求められているのである。そこから、社会活動に広めていく必要がある。

私は、6日間という実習の中で様々な経験をした。6日間、自分の思い通りにいかず悩んだ日もあった。しかし、それはこれからの自分の人生にプラスになる経験だったと感じる。

悩んだり苦しんだりすることがいい支援に繋がる。何よりも私は、利用者さんの「ありがとう楽しい1日だったよ」の一言に何度も救われた。これからつらい経験をたくさんすると思うが、今回の実習で学んだことを生かしていきたい。また、どんな支援をするときでも相手のことを一番に考えて支援したい。